

木曾谷を去る人々

おくられつ
おくりつ
はては
きそのあき



長野県西筑摩郡三岳村黒瀬

—Sさん一家の場合—

思ふまじ 見まじとすれど 我家かな (一茶)



夕陽きらめく王滝川と水没部落

住めば都ということについて

牧尾ダムのために水没する戸数は全部で174戸、長野県は西筑摩郡王滝村と三岳村の人々である。4年越し難航を続けてきた補償問題も、つい先頃円満に解決して水没する人たちは、いま移転の準備に心落付かない毎日を送っている。このSさん一家もその1人だ。

Sさん一家は愛知県の三好村緑ヶ丘開拓地に移住する。息子さんが先発して家を建てている。

昔の人はうまいことをいった、「住めば都——」風な諦観といってしまうまでもうだが、とにかく真理にはちがいない。

産土の地を去ることはたしかに辛い、新しく移り住む土地も馴染んでくれば、また離れがたい第二の故里となることだろう。



Sさんの家、後の山ぎわまで水がかかる

木曾谷を去るについて

もう老境に入ったSさんの表情には何か諦め切ったものがみえる。しかし若い人たちはちがう、木曾谷を下ることを喜んでいる風にさえみえる。世代の相違というものであろう。若い嫁さんにレンズを向けると「おらぁレットルが悪うてなア」とほがらかに笑ってまるで屈托がないのである。総じて若い人たちは明るく希望にもえているかのようである。

しかしSさんにかぎらず移転する人たちの胸の内は同じであろう。多くの希望、そしてそれと同じ位の不安——。

Sさんはじめ移住世帯の人々の前途の多幸を心から祈りたい。



こんなナリではいやじゃとおっかさんもカメラを拒否する

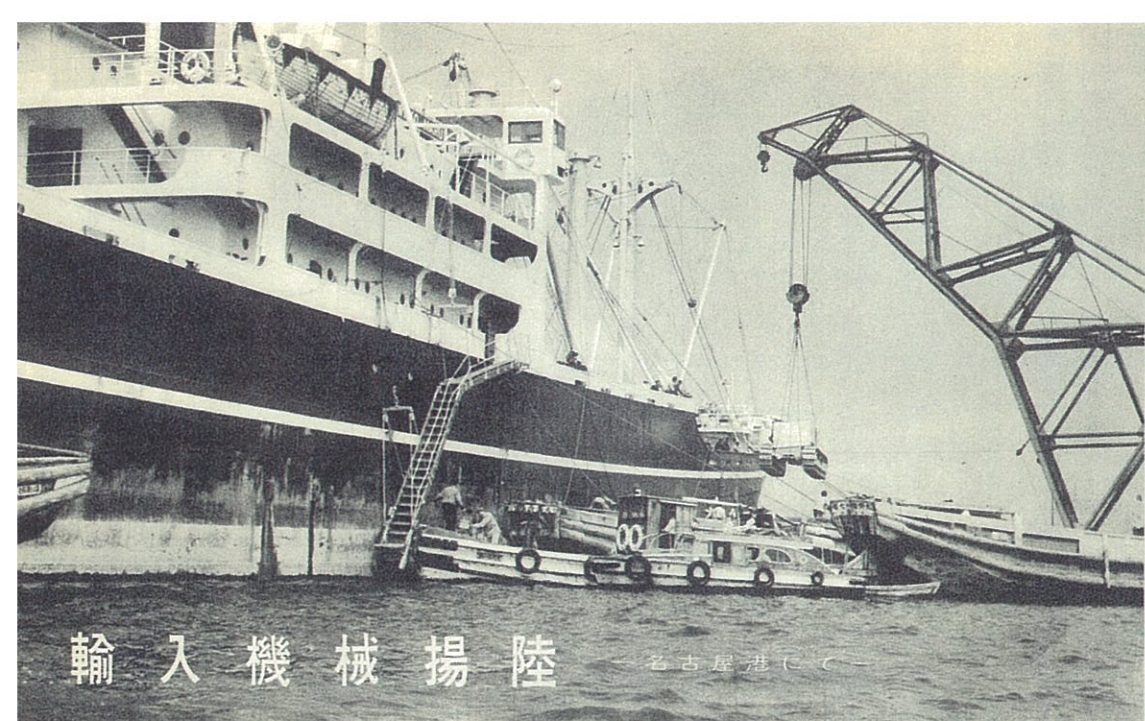


明るく笑う若い嫁さん



ガラクタキもやしからSさんの表情は感傷深げである

一見のどかな山村風景だが移転であつたらしい空気がつとせいで

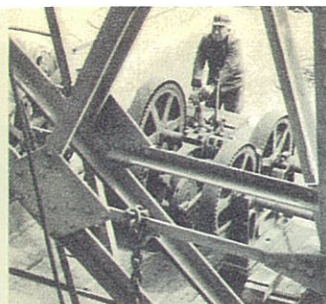


輸入機械揚陸

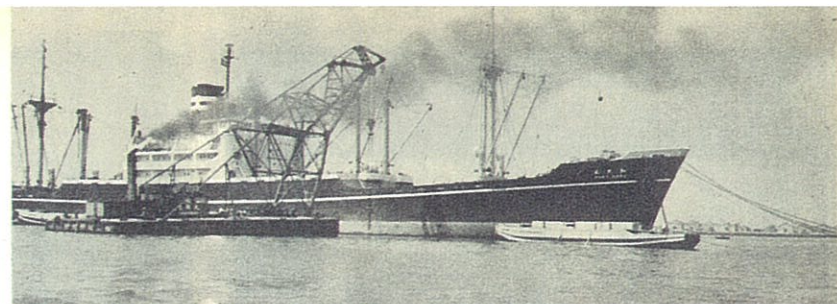
名古屋港にて

国産機械とならんで活躍を期待されている輸入機械は、本年2月からはるばる海を渡って続々

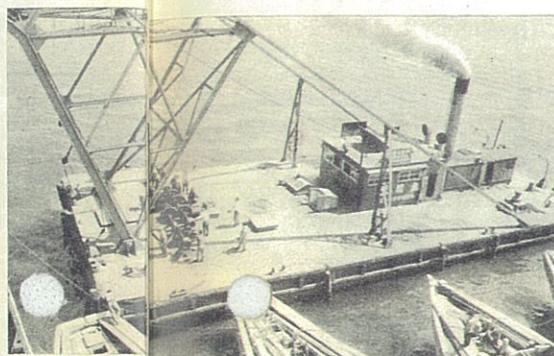
入荷しつつあるが、名古屋港における陸揚げの状況を拾ってみた



老ウインチマン



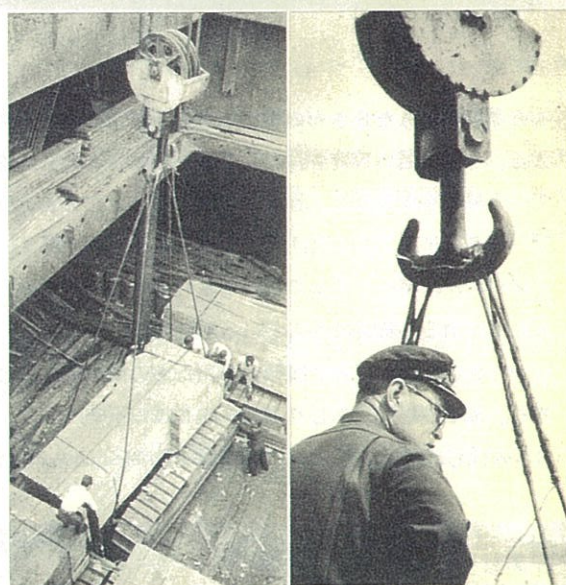
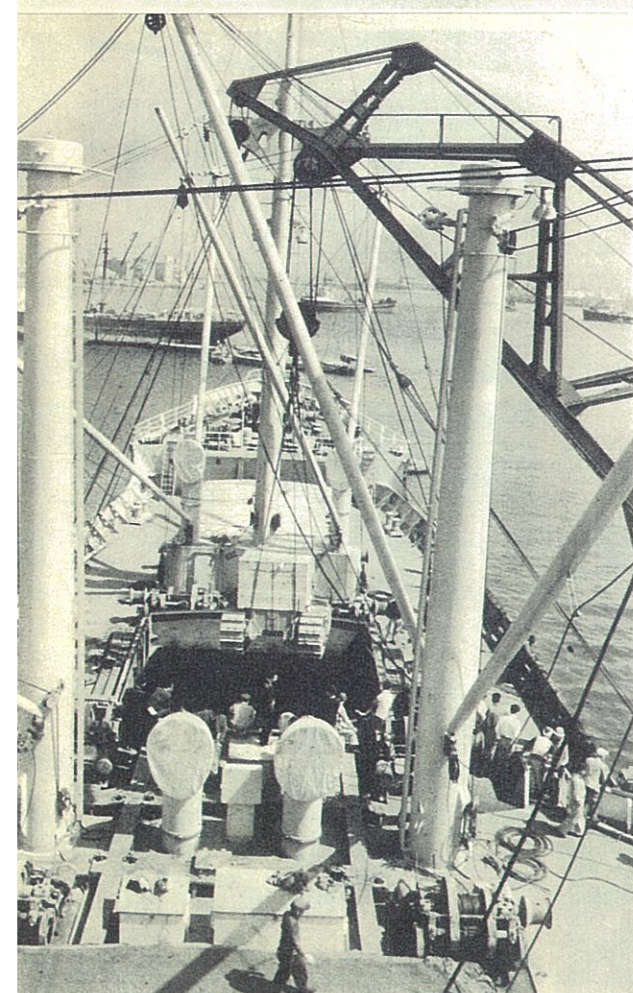
貨物船和光丸の雄姿(7,160トン) ほかにも棉花も積んでいる



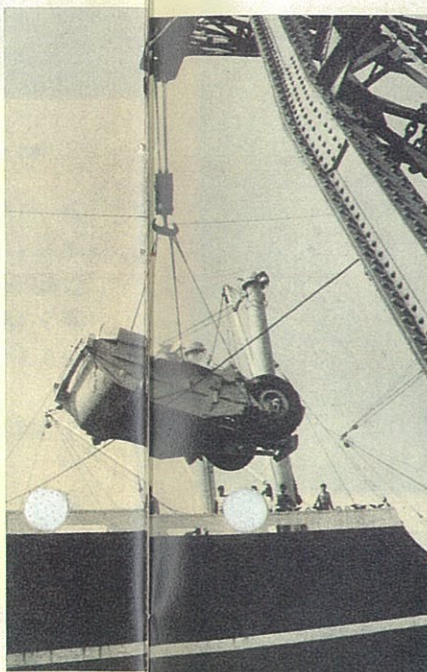
岸壁を切断し、浮ばせたような起重機船



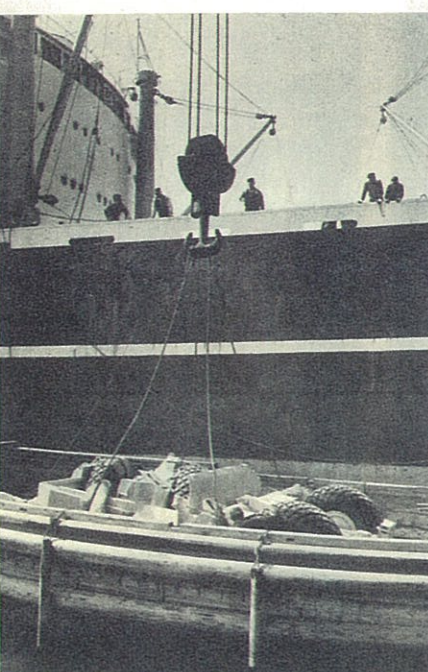
かくて都人士の驚く中を20トンブドーザー、堂々の市中行進



重量物だけにチェーンかけは慎重、ボヤボヤしていると殺されるぞと監督さんも真剣である



これはスクレーパー



やっと艀に納まったところ



起重機船で働く男たち、その熱誠の熱い火花



150トンという名古屋最大の



アリス・チャーマーの20トンブル

深いハッチからしずしずとまづトラクター